

| 授業科目名  | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|--------|--------|-------|----|-----|--------|-----|
| 国語 I A | 平成26年度 | 川合 洋子 | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必   |

[授業のねらい]

本科目は、高等専門学校での国語の基礎能力を「現代文・表現」の分野を中心に身につけさせる。具体的には、第1学年の学生として中学校までの学習の復習を含めながら、高専生、そして現代に生きる日本人として必要な近代、現代文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上、及び的確な表現能力を養うことを目標にする。

[授業の内容]

すべての内容は JABEE 基準 1 (1) の(a)および(f), 学習・教育目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する。

前期

- 第1週 本授業の概容および学習内容の説明
- 第2週 随想 「待つ」ということ(鷺田清一)①
- 第3週 随想 「待つ」ということ(鷺田清一)②
- 第4週 随想 「待つ」ということ(鷺田清一)③
- 第5週 評論 水の東西(山崎正和)①
- 第6週 評論 水の東西(山崎正和)②
- 第7週 評論 水の東西(山崎正和)③
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 前期中間試験の反省  
評論 水の東西(山崎正和)④
- 第10週 小説 なめとこ山の熊(宮沢賢治)①
- 第11週 小説 なめとこ山の熊(宮沢賢治)②
- 第12週 小説 なめとこ山の熊(宮沢賢治)③
- 第13週 小説 なめとこ山の熊(宮沢賢治)④
- 第14週 詩歌 短歌・俳句①
- 第15週 詩歌 短歌・俳句②

後期

- 第1週 前期末試験の反省
- 第2週 詩歌 サークス(中原中也)①
- 第3週 詩歌 サークス(中原中也)②
- 第4週 評論 なぜ私たちは労働するのか(内田樹)①
- 第5週 評論 なぜ私たちは労働するのか(内田樹)②
- 第6週 評論 なぜ私たちは労働するのか(内田樹)③
- 第7週 評論 なぜ私たちは労働するのか(内田樹)④
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 後期中間試験の反省  
要約文、意見文の書き方
- 第10週 小説 羅生門(芥川龍之介)①
- 第11週 小説 羅生門(芥川龍之介)②
- 第12週 小説 羅生門(芥川龍之介)③
- 第13週 小説 羅生門(芥川龍之介)④
- 第14週 小説 羅生門(芥川龍之介)⑤
- 第15週 小説 羅生門(芥川龍之介)⑥  
年間授業のまとめ

| 授業科目名     | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-----------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 国語ⅠA（つづき） | 平成26年度 | 川合 洋子 | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必   |

|  |  |
|--|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(評論・随想)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各段落、および全体の要旨をまとめることができる。</li> <li>作者の表現意図を理解し論理の展開を把握することができる。</li> <li>自分の考えや意見をまとめることができる。</li> <li>作品の今日的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。</li> </ol> <p>(詩歌)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>作者の意図を理解し、表現技巧を把握することができる。</li> <li>文学史的知識を身につけ、作品が書かれた時代背景を理解している。</li> <li>鑑賞能力を養い、自分の感想を文章にまとめることができる。</li> </ol> <p>(小説)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>あらすじを把握し、登場人物の心情・行動を理解している。</li> <li>作品・作者に関する文学史的知識を身につけ、それぞれの作品が書かれた時代背景について理解している。</li> <li>日本文学を学ぶ意義を理解している。</li> <li>読解後、自分なりの感想を文章にまとめることができる。</li> <li>作品の文学的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。</li> </ol> | <p>(前期・後期「漢字・語彙力の習得」)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「五訂版 漢字とことば 常用漢字アルファ」を使用し、それぞれの範囲の漢字小テストに取り組み、高専1年生として必要な漢字・語彙力を習得している。また、それらの実践を踏まえて、文部科学省認定の「日本漢字能力検定」「4級」以上の実力を有している。</li> </ol> <p>(前期・後期「表現力の習得」)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>スピーチや討論、ディベートなどを行い、自分の意見を公の言葉で表現することができる。(コメントカードに記入し、自分の感想を表現できる。)</li> <li>要約文、意見文の書き方を理解している。</li> <li>読書体験記、エッセイ、小論文を完成させることができる。</li> <li>短歌、詩を創作することにより、自らの心情を作品として表現することができる。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>評論、小説、詩歌などの様々な日本語の文章を学習することにより、日本語への理解力・表現力を高めるとともに、文学のもつ素晴らしさや、文学を学ぶ意義について理解することができる。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」を網羅した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>   |
| <p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。疑問が生じたら直ちに質問すること。また、課題は期限厳守提出すること。なお、本教科は後に学習する国語Ⅱ、日本文学などの基礎となる教科である。</p>  |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>本教科の学習には、中学校卒業程度の国語の知識および能力を習得していることが必要である。</p>  |  |
| <p>[レポート等] 理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。また外部コンクールに応募するための、定められたテーマによるエッセイを執筆させ、提出させる。</p>   |  |
| <p>教科書：「精選国語総合」（三省堂）<br/>参考書：「学習課題ノート」(三省堂)、「五訂版 漢字とことば 常用漢字アルファ」（桐原書店）、学校指定の「電子辞書」、</p>   |  |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準] 前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%、小テストの結果を20%、課題及び漢字検定の取り組みを20%として評価する。ただし、前期中間・前期末・後期中間・学年末試験ともに再試験を行わない。<br/>[単位修得要件] 与えられた課題レポート等をすべて提出し、前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験、課題、小テストにより、学業成績で60点以上を取得すること。</p>  |  |

| 授業科目名  | 開講年度      | 担当教員名  | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|--------|-----------|--------|----|-----|--------|-----|
| 国語 I B | 平成 2 6 年度 | 久留原 昌宏 | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必修  |

[授業のねらい] 本科目は、高等専門学校での国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心にして身につけさせる。まず、「古典」学習の意義（(1) 当時の人々の考え方、生き方を知る。（2）古典を通じて現代の自分たちの生活、考え方、生き方を捉えなおす。）を再確認する。具体的には、中学校までの古典学習の総復習を含めながら、高専生としてそして現代に生きる日本人として、必要な古典文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上をねらいとする。

| [授業の内容]  | 後 期   |
|--|---|
| すべての内容は学習・教育目標（A）の<視野><意欲>、及び（C）の<発表>に対応する。            | 第 1 週 前期末試験の反省                                  |
| 前 期  | 歌物語「芥川」①（「伊勢物語」）<br>（文法：修辞法の学習①）                |
| 第 1 週 古文入門および学習方法について<br>（「古典学習の意義」としての「温故知新」）         | 第 2 週 歌物語「芥川」②（「伊勢物語」）<br>（文法：修辞法の学習②）          |
| 第 2 週 古文入門「兄のそら寝」①（「宇治拾遺物語」）<br>（歴史的仮名遣い、「いろは歌」を学ぶ）    | 第 3 週 歌物語「芥川」③（「伊勢物語」）<br>（文法の応用学習 1「助動詞」の学習）   |
| 第 3 週 古文入門「兄のそら寝」②（「宇治拾遺物語」）<br>（文法の基礎学習① 古語辞典の引き方）    | 第 4 週 歌物語「東下り」①（「伊勢物語」）<br>（文法：修辞法の学習③）         |
| 第 4 週 古文入門「検非違使忠明」①（「宇治拾遺物語」）<br>（文法の基礎学習② 品詞を学ぶ）      | 第 5 週 歌物語「東下り」②（「伊勢物語」）<br>（文法の応用学習 2「助動詞」の学習）  |
| 第 5 週 古文入門「検非違使忠明」②「宇治拾遺物語」）<br>（文法の基礎学習③ 用言を学ぶ）       | 第 6 週 歌物語「東下り」③（「伊勢物語」）<br>（文法の応用学習 4「助詞」の学習）   |
| 第 6 週 古文入門「検非違使忠明」③（「宇治拾遺物語」）<br>（文法の基礎学習④ 動詞の活用と活用形）  | 第 7 週 歌物語「東下り」④（「伊勢物語」）<br>（文法の応用学習 5「助詞」の学習）   |
| 第 7 週 文法の基礎学習⑤ 係り結びの法則）<br>前期中間までの復習                   | 後期中間までの復習                                       |
| 第 8 週 前期中間試験   | 第 8 週 後期中間試験                                    |
| 第 9 週 前期中間試験の反省  | 第 9 週 後期中間試験の反省                                 |
| 作り物語「かぐや姫の生い立ち」①「竹取物語」                                 | 漢文入門 「漢文の世界へ」<br>（訓読の基礎「訓読」「訓点」の学習）             |
| 第 10 週 作り物語「かぐや姫の生い立ち」②「竹取物語」<br>（文法の基礎学習⑥ 「形容詞」活用の種類） | 第 10 週 漢文入門 「漢文の構造と訓読の仕方」<br>（訓読の基礎「訓読」「訓点」の学習） |
| 第 11 週 作り物語「かぐや姫の成長」①「竹取物語」<br>（文法の基礎学習⑦ 「形容動詞」活用の種類）  | 第 11 週 漢文入門 「成句・格言を読む」①<br>（訓読の基礎「再読文字」等の学習）    |
| 第 12 週 作り物語「かぐや姫の成長」②「竹取物語」<br>（文法の基礎学習⑧ 「助動詞」の学習①）    | 第 12 週 漢文入門 「成句・格言を読む」②<br>（「書き下し文」の学習）         |
| 第 13 週 随筆「つれづれなるままに」（徒然草）<br>（文法の基礎学習⑨ 「助動詞」の学習②）      | 第 13 週 故事成語「借虎威」①<br>（訓読の基礎「置き字」「助字」の学習）        |
| 第 14 週 随筆「ある人、弓射ることを習ふに」①（徒然草）<br>（文法の基礎学習⑩ 「助動詞」の学習③） | 第 14 週 故事成語「借虎威」②<br>（「戦国策」の文学史的価値）             |
| 第 15 週 随筆「ある人、弓射ることを習ふに」②（徒然草）<br>前期末までの復習             | 第 15 週 年間授業のまとめ<br>アンケート（感想）実施・提出等              |

| 授業科目名     | 開講年度   | 担当教員名  | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-----------|--------|--------|----|-----|-------|-----|
| 国語ⅠB（つづき） | 平成26年度 | 久留原 昌宏 | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必修  |

|   |   |
|---|---|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期</p> <p>（古文入門）（「宇治拾遺物語」）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「古典」の学習の目当て、「温故知新」の意義を理解し、学習する意義を確認する。</li> <li>音読を通して現代文との違いに注意しながら、古文を読むための基礎（歴史的仮名遣い・品詞の分類）を理解している。</li> <li>登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解できる。</li> </ol> <p>（古文・物語）（「竹取物語」）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「竹取物語」のあらすじの展開や、登場人物の心理に注目して、作り物語の内容を理解している。</li> </ol> <p>（古文・随筆）（「徒然草」）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>三大随筆のそれぞれの文学的価値を理解している。</li> <li>兼好法師の人生観および「徒然草」の世界観を理解している。</li> <li>古典文法の基礎学習「用言」の学習内容を理解している。</li> </ol> | <p>後期</p> <p>（古文・物語）（「伊勢物語」）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>歌物語の展開をおさえながら、古典の内容を理解している。</li> <li>「修辞法」の学習を通して、歌物語の特徴を理解する。</li> <li>古典文法の応用学習「付属語」の学習内容を理解している。</li> </ol> <p>（漢文入門）（訓読の基礎学習・「成句・格言」）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>漢文の特色を学び、漢文訓読の基礎（訓点・書き下し文）を理解している。</li> <li>成句と格言を読み、漢文の世界を理解できる。</li> </ol> <p>（漢文・故事成語）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>故事成語の学習、十八史略等の学習を通して、戦国時代諸国と遊説家の言行、および文学史的価値を理解している。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>古典学習を通じて、当代の人間の考え方や生き方を知ることから始まり、加えて現代に生きる日本人として必要な「古典文学」の基礎知識の獲得と読解力の向上を果たすことができる。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」（前期1～7・後期8～13）のすべてを網羅した問題を2回の中間考査、2回の定期考査とレポート等で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等する。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>  |
| <p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。また、ノート、課題は期限厳守して提出すること。なお、本教科は後に学習する国語Ⅱ、日本文学、言語表現学Ⅰ・Ⅱ、文学概論Ⅰ・Ⅱの基礎になる科目である。</p>   |   |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校卒業程度の国語能力、特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする。</p>  |   |
| <p>[レポート等]</p> <p>理解を深めるため、すべての教材に演習課題を与える。また、古典文法小テスト、古典名文の暗唱テスト、ノート提出等を課する。</p>   |   |
| <p>教科書：「精選 国語総合」（三省堂）</p> <p>参考書：「精選 国語総合 学習課題ノート」（三省堂）、「二訂版楽しく学べる基礎からの古典文法」（第一学習社）、本校指定の電子辞書、</p>  |   |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回試験の平均点を60%、課題（レポート、ノート提出）20%、小テスト、授業中の黒板での問題演習への取り組み等の結果を20%として評価する。ただし、前期中間・前期末・後期中間・学年末試験の4回試験ともに再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた演習課題を提出し、学業成績で60点以上を修得すること。</p>   |   |

| 授業科目名 | 開講年度      | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|-------|-----------|-------|----|-----|--------|-----|
| 世界史 I | 平成 2 6 年度 | 小倉正昭  | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必   |

[授業のねらい]

1. 人類の歴史文化遺産に親しみ、国際人としての教養を身につける。
2. 人類や社会の進歩発展の過程や諸文明の盛衰の原因を考察する。

[授業の内容]

すべての内容は、教育・学習目標(A)<視野>に対応する。

前期

- 第1週 授業の概説—世界史概論  
 第2週 原始社会 1—人類の発展史, 原始宗教  
 第3週 原始社会 2—農耕牧畜の歴史的意義  
 第4週 オリエン特文明 1—古代メソポタミア史  
 第5週 オリエン特文明 2—アケメネス朝ペルシア帝国史  
 第6週 オリエン特文明 3—古代エジプトの歴史と文化  
 第7週 オリエン特文明 4—地中海東岸の諸国の歴史  
 第8週 中間試験  
 第9週 地中海文明 1 エーゲ文明, ポリスの成立  
 第10週 地中海文明 2 アテネとスパルタ  
 第11週 地中海文明 3—古代アテネの民主主義の成立史  
 第12週 地中海文明 4—古代ギリシアの盛衰  
 第13週 地中海文明 5—ヘレニズム時代史  
 第14週 地中海文明 6—ローマのイタリア統一, 帝政の成立  
 第15週 地中海文明 7—キリスト教の発展, ローマ帝国の没落

後期

- 第1週 インド文明 1—インダス文明, アーリア人の進入  
 第2週 インド文明 2—仏教・ジャイナ教の成立過程  
 第3週 インド文明 3—統一国家と仏教の発展と衰退  
 第4週 中国文明 1—中国史の特質問題, 黄河文明論  
 第5週 中国文明 2—殷周時代, 春秋戦国史  
 第6週 秦漢時代 1—古代中国思想史, 統一国家の成立  
 第7週 秦漢時代 2—漢帝国の成立史  
 第8週 中間試験  
 第9週 秦漢時代 3—専売制度の成立と歴史的意義  
 第10週 秦漢時代—秦漢時代の文化と東アジア  
 第11週 南北朝時代 1—三国時代と五胡十六国時代論,  
 第12週 南北朝時代 2—九品官人法と門閥貴族制の成立  
 第13週 隋唐時代 1—隋・唐の中国統一  
 第14週 隋唐時代 2—律令制度と唐の盛衰  
 第15週 隋唐時代 3—両税法の歴史的意義と唐代の文化

| 授業科目名     | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-----------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 世界史Ⅰ（つづき） | 平成26年度 | 小倉正昭  | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必   |

|  |  |
|--|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類の発展過程と原始人の宗教生活が理解できる。</li> <li>2. 農耕牧畜の開始により原始国家の成立過程が理解できる。</li> <li>3. アケメネス朝ペルシア史で専制国家の特徴が理解できる。</li> <li>4. エジプトの古代文化の西洋文化への影響が理解できる。</li> <li>5. エーゲ文明の内容とポリスの成立過程が理解できる。</li> <li>6. アテネとスパルタの違いが理解できる。</li> <li>7. 古代アテネの民主政治の成立の原因や特徴が理解できる。</li> <li>8. ローマのイタリア半島統一と地中海征服の意義が理解できる。</li> <li>9. ローマ帝政の成立とキリスト教の発展の関係が理解できる。</li> <li>10. ローマ帝国の衰退原因と中世への移行過程が理解できる。</li> </ol> | <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アーリア人の侵入による政治支配の特徴が理解できる。</li> <li>2. 仏教の成立背景と発展と没落の理由が理解できる。</li> <li>3. 中国史の特質と殷周時代の特徴が理解できる。</li> <li>4. 諸子百家思想で中国思想の特質が理解できる。</li> <li>5. 秦漢帝国の成立過程と専売精度の歴史的意義が理解できる。</li> <li>6. 漢代の儒教の発展と中国の歴史書と特徴が理解できる。</li> <li>7. 中国中世の特質と北魏の中国支配の特徴が理解できる。</li> <li>8. 門閥貴族制度の成立と特徴が理解できる。</li> <li>9. 隋の中国統一の意義と律令制度の内容が理解できる。</li> <li>10. 中国史における両税法改革の歴史的意義が理解できる。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>人類の発展過程と農耕牧畜の大切さ、古代のメソポタミア文明やエジプト文明の内容、古代ギリシアや古代ローマの歴史発展と没落過程、古代インドの歴史特徴と仏教の成立と発展、中国古代史の発展、秦漢帝国の成立や南北朝から唐代の貴族性時代の特徴が理解できる。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」前期1～10、後期1～10を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。重みは概ね均等とする。評価結果が60点以上の場合に目標の達成とする。</p>  |
| <p>[注意事項] 新聞、テレビニュース等も教材として随時利用する。また「世界史図説」は授業に必ず携帯すること。<br/>本教科は後に学習する世界史Ⅱの基礎となる教科である。</p>  |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 今日、世界で生起している歴史的事件に関心を寄せておくこと。</p>   |  |
| <p>[レポート等]<br/>なし</p>  |  |
| <p>教科書：「新編 世界の歴史」北村正義編(学術図書出版社)<br/>参考書：「最新世界史図説 タペストリー」帝国書院編集部編(帝国書院)</p>   |  |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験(期末試験および中間試験)で評価を行う。前期中間、前期末、後期中間、学年末の4回の試験の平均点で評価する。ただし前期中間、前期末、後期中間の3回の試験について60点に達していない者には再試験を行い、60点を上限として再試験の成績で置き換える。学年末試験については再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>  |  |

| 授業科目名 | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 地理    | 平成26年度 | 鷲野雅好  | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必修  |

[授業のねらい]

人間と自然環境・社会環境との関係を学習することにより、世界各地域、国の現状を把握し、現代社会の諸問題に対する関心を高める。現代は一国だけでは政治、経済活動を行うことはできない。グローバル化した時代認識の上に立ち地球的課題の解決に少しでも役立てるようにする。

[授業の内容] 前後期の第1～15週までの内容は、学習・教育目標 (A) <視野>、<技術者倫理>に対応する。

前期

|      |                |            |
|------|----------------|------------|
| 第1週  | 球面上の世界と地域構成(1) |            |
|      | 私たちの星・地表面の捕らえ方 |            |
| 第2週  | 球面上の世界と地域構成(2) | 球面と平面の世界   |
| 第3週  | 球面上の世界と地域構成(3) | 時差と生活      |
| 第4週  | 球面上の世界と地域構成(4) | 国家と地域区分    |
| 第5週  | 結びつく現代世界(1)    | 世界を結ぶ交通    |
| 第6週  | 結びつく現代世界(2)    | 世界を一つに結ぶ通信 |
| 第7週  | 結びつく現代世界(2)    | 国際化する人々の移動 |
| 第8週  | 中間試験           |            |
| 第9週  | 人間生活をとり巻く環境(1) | 人々の生活と地形   |
| 第10週 | 人間生活をとり巻く環境(2) | 人々の生活と地形   |
| 第11週 | 人間生活をとり巻く環境(1) | 人々の生活と地形   |
| 第12週 | 人間生活をとり巻く環境(1) | 人々の生活と地形   |
| 第13週 | 人間生活をとり巻く環境(1) | 人々の生活と気候   |
| 第14週 | 人間生活をとり巻く環境(1) | 人々の生活と気候   |
| 第15週 | 人間生活をとり巻く環境(1) | 人々の生活と気候   |

後期

|      |                   |                 |
|------|-------------------|-----------------|
| 第1週  | 世界の諸地域の生活と文化      | 中国の生活・文化        |
| 第2週  | 〃                 | 東南アジアの生活・文化     |
| 第3週  | 〃                 | インドの生活・文化       |
| 第4週  | 〃                 | ヨーロッパの生活・文化     |
| 第5週  | 〃                 | U. S. A. の生活・文化 |
| 第6週  | 〃                 | オーストラリアの生活・文化   |
| 第7週  | 地域的課題と私たち(1)      | 世界の人口問題         |
| 第8週  | 中間試験              |                 |
| 第9週  | 地域的課題と私たち(2)      | 世界の人口問題         |
| 第10週 | 〃                 | 世界の食糧問題         |
| 第11週 | 〃                 | 世界の都市・居住問題      |
| 第12週 | 〃                 | 世界の資源・エネルギー問題   |
| 第13週 | 〃                 | 世界の環境問題(1)      |
| 第14週 | 〃                 | 世界の環境問題(2)      |
| 第15週 | 近隣諸国が取り組む課題と日本の役割 |                 |

| 授業科目名   | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|---------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 地理（つづき） | 平成26年度 | 鷲野雅好  | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必修  |

|  |   |
|--|---|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 地球の大きさについて理解している。</p> <p>2. 地図についての基本的知識を習得している。</p>   | <p>3. 地形・気候について理解している。</p> <p>4. 世界の主要国の自然・社会環境生活文化の特色が理解できる。</p> <p>5. 世界の諸問題について理解し考えることができる。</p>                                   |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>地理的なものの見方、考え方を習得し、事実の把握だけにとどまらず、いろいろな事象を地理的に考察できる。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～5の確認を、2回の中間試験、2回の定期試験および課題で行う。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p> |
| <p>[注意事項]</p> <p>1. 教科書・地図帳を用いて授業を進めるので、話をよく聞いて事象と事象の結びつきを理解することに努めることが肝要である。</p> <p>2. 板書を多くするので必ずノートをとること。</p> <p>3. 国名、県名、都市名など地誌の知識に乏しいと理解が困難になる。授業には必ず地図帳を持参すること。同時に普段の生活の中でも社会の動きに関心を持つこと。</p>       |   |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>小・中学校で学んだ地理的分野の知識</p>  |   |
| <p>[レポート等]</p>   |   |
| <p>教科書：「新地理A1(帝国書院)」、「新詳高等地図」(帝国書院)</p> <p>参考書：</p>  |   |
| <p>[学業成績の評価法および評価基準]</p> <p>4回の定期試験の結果と課題の提出、授業への取り組みにより総合判断をする。成績不振者については、再試験または課題を課す。再試験で60点以上を得点するか、または課題を提出した場合には60点を上限として定期試験の点数と置き換える。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題レポートを提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p> |   |



| 授業科目名 | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|-------|--------|-------|----|-----|--------|-----|
| 物理    | 平成26年度 | 丹波 之宏 | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必   |

[授業のねらい]

物理は、自然の仕組みを調べる学問の基礎として大切であるが、またその応用として専門技術の理解にも必要なものである。中学校の理科では、自然の仕組みを言葉の説明を通して理解してきた。この授業では、自然を理解するときに数式を使い計算を通して行うという物理学本来の方法を学ぶ。この方法は、専門科目の理解の方法とも一致するので早くなれて欲しい。

具体的には、物理学の中でも、基礎となる力学の「速度」、「加速度」からはじめ「力」、「運動の法則」、「力学的エネルギー」等を学ぶ。1年生では、数学の進度の関係から運動は、一直線の運動のみを学ぶ。平面上の運動については、2年生になってから学ぶ。

[授業の内容]

前後期共に第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標 (B) <基礎>に相当する。

前期

- 第1週 授業内容の説明, 有効数字の説明
- 第2週 速さ、速度、速度の合成
- 第3週 相対速度、等速直線運動
- 第4週 加速度、等加速度直線運動
- 第5週 加速度が負の運動
- 第6週 落体の運動 (自由落下)
- 第7週 落体の運動 (鉛直投射)
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 ベクトル
- 第10週 力の表わし方、フックの法則、力の合成と分解
- 第11週 力のつり合い、作用・反作用の法則
- 第12週 慣性の法則、運動の法則
- 第13週 重力と質量、運動の三法則、単位と次元
- 第14週 運動方程式の応用 (糸でつるした物体の運動)
- 第15週 運動方程式の応用 (運動した2物体の運動)

後期

- 第1週 摩擦力 (水平方向)
- 第2週 摩擦力 (斜面方向)
- 第3週 圧力と浮力
- 第4週 空気抵抗がはたらく運動
- 第5週 仕事
- 第6週 仕事の原理、仕事率
- 第7週 運動エネルギー
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 位置エネルギー
- 第10週 力学的エネルギー保存の法則 (その1)
- 第11週 力学的エネルギー保存の法則 (その2)
- 第12週 保存力と力学的エネルギーの保存
- 第13週 熱と温度
- 第14週 熱量
- 第15週 熱の利用

| 授業科目名   | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|---------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 物理（つづき） | 平成26年度 | 丹波 之宏 | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必   |

|   |   |
|---|---|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 四則計算に関する有効数字の取り扱いができる。</li> <li>2. 変位，速度，加速度を用いた計算ができる。</li> <li>3. 落体の運動の式を使ってその運動の計算ができる。</li> <li>4. 力に関連した計算ができる。</li> <li>5. 運動方程式を用いて色々な運動の計算ができる。</li> <li>6. 摩擦力に関連した計算ができる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 圧力と浮力に関連した計算ができる。</li> <li>8. 仕事に関連した計算ができる。</li> <li>9. 運動エネルギーに関連した計算ができる。</li> <li>10. 位置エネルギーに関連した計算ができる。</li> <li>11. 力学的エネルギーが保存の法則を利用した計算ができる。</li> <li>12. 熱容量と比熱に関連した計算ができる。</li> <li>13. 仕事と熱量に関連した計算ができる。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>力学（及び熱力学の初歩）に関連する物理量を取り扱って必要な計算ができる。</p>  | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1から13にあげた事柄に関した問題を2回の中試験，2回の定期試験で出題し，目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。ただし，基本概念及び基本法則に関する計算は繰り返し用いられるので，必然的にその重みは大きくなる。試験問題のレベルは高等学校程度である。評価結果が60点以上の場合に目標の達成とする。</p>   |
| <p>[注意事項]</p> <p>“勉強の仕方” 基本的に，教科書にしたがって授業は行われる。授業が終わったら，自宅で，教科書の内容を復習する。問題集の習った範囲の例題，問題等を解いて理解を確実にするとよい。</p> <p>物理は，自分で考え理解することが大切である。すぐ答えを見ないで，自分の力で考え解いてみる力を養うように努力する。</p> <p>本科目は後に学習する「応用物理Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる科目である。</p>   |   |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>特になし。</p>   |   |
| <p>[レポート等]</p> <p>演習課題を課す。</p>  |   |
| <p>教科書：「物理基礎」高木堅志郎・植松恒夫編（啓林館）</p> <p>参考書：「フォローアップドリル物理基礎」（数研出版），「センサー総合物理」（啓林館）</p>   |   |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期期末・後期中間・学年末の4回の試験またはそれに代わる再試験（上限60点，各試験につき1回限りで，学年末は原則行わない）の平均に，演習課題の評価を最大で20%までいれ学業成績の総合評価とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>   |   |

| 授業科目名 | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|-------|--------|-------|----|-----|--------|-----|
| 化学    | 平成26年度 | 山崎 賢二 | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必   |

[授業のねらい]

本科目の学習を通し、化学に関する基本的な事項、及び物質の構成や物質の変化、その理論的な扱いを理解し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。またこれらを身に付けることで、高学年における実践的技術者教育の基礎をつくる。

[授業の内容]

前期

◆授業の概要説明

第1週 シラバスを用いて授業の概要、進め方を説明する。

化学と人間生活 学習・教育目標(A)〈視野〉

〈技術者倫理〉に相当する。

以下すべての内容は、学習・教育目標(B)〈基礎〉に相当する。

◆物質の構成

第2週 混合物と純物質、物質の三態、化合物と単体、元素

第3週 元素、同素体、元素の確認法

第4週 原子の構造、同位体、原子の電子配置、価電子

第5週 周期律、周期表、金属、非金属

第6週 イオン、イオンの生成とエネルギー、イオンの大きさ

第7週 イオン結合、組成式、イオン結晶

第8週 前期中間試験

第9週 共有結合と分子の形成、分子式、電子式、構造式

分子の形

第10週 配位結合と錯イオン、極性、電気陰性度

第11週 分子結晶、分子間結合、共有結晶

第12週 分子からなる物質の利用－無機物質

第13週 分子からなる物質の利用－有機物質

第14週 金属結合、金属の特徴、金属の利用

第15週 結晶の比較、結晶格子

後期

すべての内容は、学習・教育目標(B)〈基礎〉に相当する。

◆物質の変化

第1週 原子量、分子量、式量

第2週 物質質量(モル)の概念

第3週 溶解と濃度

第4週 状態変化と気体の圧力

第5週 化学変化と化学の基本法則

第6週 酸と塩基

第7週 水素イオン濃度

第8週 後期中間試験

第9週 中和と塩

第10週 中和滴定

第11週 酸化と還元

第12週 酸化剤と還元剤の反応

第13週 金属のイオン化傾向

酸化還元反応の利用

第14週 電池

第15週 電気分解

| 授業科目名     | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-----------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 化 学 (つづき) | 平成26年度 | 山崎 賢二 | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必   |

|   |   |
|---|---|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>◆化学と人間生活 学習・教育目標(A)〈視野〉〈技術者倫理〉に相当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学が物質を対象とする科学であることを理解できる。</li> <li>2. 化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。</li> </ol> <p>◆物質の構成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 混合物, 純物質, 単体, 化合物の分類を把握できる。</li> <li>4. 原子の構造や原子の電子配置を理解できる。</li> <li>5. 周期表と元素の性質の関係を理解できる。</li> <li>6. イオン結合とイオンについて理解できる。</li> <li>7. 共有結合と分子の形成について理解できる。</li> <li>8. 分子式, 電子式, 構造式により分子構造を表すことができる。</li> <li>9. 分子の形について理解できる。</li> <li>10. 配位結合と錯イオンの形成について理解できる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 電気陰性度と極性について理解できる。</li> <li>12. 分子間結合と分子結晶について理解し, 共有結晶との違いを説明できる。</li> <li>13. 有機物質と無機物質の違いを理解し, それらの利用例をいくつか挙げるができる。</li> <li>14. 金属結合と金属結晶の特徴を理解できる。</li> </ol> <p>◆物質の変化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. 原子量, 式量を計算でき, モルの概念を理解できる。</li> <li>16. 溶解現象と溶液について理解し, 濃度の計算ができる。</li> <li>17. 状態変化と気体の圧力について理解できる。</li> <li>18. 化学反応における物質質量を用いた量の計算ができる。</li> <li>19. 酸と塩基の性質, 中和反応が理解でき, pH 計算ができる。</li> <li>20. 酸化数が計算できる。</li> <li>21. 酸化還元反応や電子の授受について理解できる。</li> <li>22. 電池の仕組み, 電気分解反応について理解できる。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>化学基礎に関する基本的事項を理解し, 化学と人間生活, 物質の構成, 物質の変化に関する知識, 原理や用語を理解し, 関連する問題を解くことができる。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1~22 に関して2回の中間試験, 2回の定期試験で出題し, 目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>   |
| <p>[注意事項]</p> <p>授業中に演習問題を解くので電卓は必要である。また試験時においても電卓の持ち込みは可である。本科目は後に学習する化学特講, 化学総論の基礎となる教科である。</p>  |   |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校での数学, 理科, 及び本校で履修する数学系科目に関する基礎知識が必要である。</p>  |   |
| <p>[レポート等]</p> <p>限られた授業時間の中で取り組む練習問題だけではその量は足りない。家庭での学習状況をアピールする手段の一つとして, 問題集「リードLightノート化学基礎」に取り組み, 前期末, 学年末の試験時に提出することを薦める。</p>  |   |
| <p>教科書:「高等学校化学基礎」 山内薫 他著 (第一学習社)</p> <p>問題集:「リードLightノート化学基礎」 数研出版編集部 (数研出版)</p> <p>参考書:「改訂版フォトサイエンス化学図録」 数研出版編集部 (数研出版)</p>  |   |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間, 前期末, 後期中間, 学年末の4回の試験の平均点で評価する。ただし, 各試験のそれぞれについて60点に達していない者には再試験を課し, 再試験の成績が再試験の対象となった試験の成績を上回った場合には, 60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。その他, 授業中における質疑応答, 演習問題への取り組み, 「プログレス化学基礎」の学習状況等を評価して加味する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>   |   |

| 授業科目名  | 開講年度      | 担当教員名                  | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|--------|-----------|------------------------|----|-----|--------|-----|
| 英語 I A | 平成 2 6 年度 | 出口 芳孝<br>(Mike Lawson) | 1  | 通年  | 履修単位 4 | 必   |

〔授業のねらい〕

日本人教員による授業で、英語の基本的な文法知識体系を習得し、外国人教員による授業で、その知識を実際のコミュニケーションの場で活用し、実用に耐える英語運用能力を身に付けることを目指す。(外国人教員による授業については、別紙を参照すること。)

〔授業の内容〕

下記授業内容はすべて学科学習教育目標(A)〈視野〉〈意欲〉および(C)〈英語〉の項目に相当する。

【前期】

- 第1週 ガイダンス： 高専英語の学習について
- 第2週 文の種類
- 第3週 文の成り立ち
- 第4週 時制
- 第5週 完了形
- 第6週 助動詞
- 第7週 態
- 第8週 まとめ
- 第9週 中間試験
- 第10週 ガイダンス： 試験の反省、今後の学習方法
- 第11週 不定詞(1)
- 第12週 不定詞(2)
- 第13週 動名詞
- 第14週 分詞
- 第15週 まとめ

【後期】

- 第1週 比較
- 第2週 関係詞(1)、関係詞(2)
- 第3週 仮定法、話法
- 第4週 動詞文型と前置詞句、「支配」と「修飾」
- 第5週 助動詞と時制・態、定形(述語動詞)
- 第6週 準動詞(分詞・不定詞・動名詞)と形容詞
- 第7週 動名詞、名詞構文
- 第8週 まとめ
- 第9週 中間試験
- 第10週 ガイダンス： 試験の反省、今後の学習方法
- 第11週 関係詞、かたまりのレベル
- 第12週 比較、仮定法
- 第13週 文法の勘所(1)：名詞構文、無生物主語
- 第14週 文法の勘所(2)：省略・圧縮表現
- 第15週 まとめ

| 授業科目名        | 開講年度      | 担当教員名                  | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|--------------|-----------|------------------------|----|-----|--------|-----|
| 英語 I A (つづき) | 平成 2 6 年度 | 出口 芳孝<br>(Mike Lawson) | 1  | 通年  | 履修単位 4 | 必   |

|   |  |
|---|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書の英文で使われている単語・熟語の意味を理解し、使用できる.</li> <li>2. 教科書の英文で使われている文法事項を理解し、利用できる.</li> <li>3. 教科書の英文の内容が理解でき、同じ程度の英文を作ることができる.</li> </ol>   |  |
| <p>[達成目標]</p> <p>基本的な文法を理解し、英語を「読む・書く・話す」ことに活用することができる.</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～3を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する. 達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする. 評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする.</p> |
| <p>[注意事項] 本教科は英語 IIA, B の基礎となる. 電子辞書を必ず授業に持参すること. 計画的に予習復習を行い、積極的に授業に参加すること.</p>  |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校で学習した英単語, 英文法の知識</p>  |  |
| <p>[レポート等] 授業内容に関連する小テスト, および課題を課す.</p>   |  |
| <p>教科書: 『三訂版 DUAL SCOPE English Grammar in 22 Stages』 (数研出版),<br/>『Workbook for DUAL SCOPE English Grammar in 22 Stages』 (数研出版),<br/>参考書: 『四訂版 チャート式シリーズ DUALSCOPE High School デュアルスコープ総合英語』 (数研出版)<br/>『理工系学生のための必修英単語 2800』 (成美堂)<br/>『工業英語ハンドブック』 (日本工業英語協会)</p> |  |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を70%, 平常時の小テストや課題の評価の合計を30%として、それぞれの学期毎に評価し、これらの平均値を最終評価とする. 但し、学年末試験を除く3回の試験について60点に達していない学生については再試験を行う場合がある. その場合には再試験の結果を、60点を上限としてそれぞれの試験の成績に置き換えるものとする.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること.</p>       |  |

| 授業科目名 | 科目コード    | 担当教官名       | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|-------|----------|-------------|----|-----|--------|-----|
| 英語 IA | 平成 26 年度 | Mike Lawson | 1  | 前期  | 履修単位 1 | 必   |

|  |  |
|--|--|
| <p>[授業の目標]</p> <p>Students will improve their ability to use English in a professionally relevant manner by practicing a process of speech outline creation and by actually giving English speeches in class. Specifically, working in groups, students will be provided with blank outline forms and will be assisted in brainstorming predetermined topics and in selecting three main points concerning the topic. In turn, working with the teacher, each of these three points will be brainstormed in order to find nine important sub points. The main points will comprise the introduction and conclusion of the outline, while the sub points will comprise the body. Upon completion of the outlines, groups will take turns coming to the front of the classroom and saying their speeches to the class.</p> |  |
| <p>[授業の内容]</p> <p>The following content conforms to the learning and educational goals: (A) &lt;Perspective&gt; [JABEE Standard 1(1)(a)], and (C) &lt;English&gt; [JABEE Standard 1(1)f].</p> <p>Week:</p> <p>1: Introduce class requirements</p> <p>2: Outline development (3 main points—Point “A”, “B” and “C”)—based on topic—“Why SNCT is good”.</p> <p>3: Outline development (Sub points of Point “A”)</p> <p>4: Outline development (Sub points of Point “B”)</p> <p>5: Outline development (Sub points of Point “C”)</p> <p>6: Say speeches in class</p> <p>7: Say speeches in class</p> <p>8: Midterm Exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus.</p>  | <p>Week:</p> <p>09: Outline development (3 main points—Point “A”, “B” and “C”)—based on topic—“Why I want to be an engineer”.</p> <p>10: Outline development (Sub points of Point “A”)</p> <p>11: Outline development (Sub points of Point “B”)</p> <p>12: Outline development (Sub points of Point “C”)</p> <p>13: Say speeches in class</p> <p>14: Say speeches in class</p> <p>15: Say speeches in class</p> <p>16: Final exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus.</p> |
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. To practically understand an English oral presentation process.</p> <p>2. To work through steps to create presentation outlines.</p> <p>3. To give presentations in class.</p> <p>4. To improve their ability to use English in a professional manner.</p>   |  |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>The objective of this course is to help the students improve their ability to use English in a professionally relevant manner: by learning how to create a presentation outline, and by giving speeches in class.</p>  | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>Students’ abilities 1 to 4 to use English in a professionally relevant manner will be almost evenly evaluated through the use of two exams (a midterm exam and a final exam). Students will have attained the goals provided that they have earned 60% of the total points possible for this course.</p>  |
| <p>[注意事項]</p> <p>You may contact me at the following address: <a href="mailto:lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp">lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp</a>.<br/>This course will form the basis for the classes, English IIA and English IIB.</p>  |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>An understanding of basic English syntax and grammar achieved at the junior high school.</p>   |  |
| <p>[レポート等] The total time necessary for students to acquire an understanding of the course is 45 hours, including classroom time and study time outside of the classroom.</p>  |  |
| <p>教科書： 1. Handouts distributed in class.</p>  |  |
| <p>[学業成績の評価方法及び評価基準]</p> <p><b>Method of Evaluation:</b> 50% Midterm Exam, 50% Final Exam. <b>Students may have their final scores reduced for poor behavior during classes.</b></p> <p>[単位修得要件]</p> <p>Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.</p>   |  |

| 授業科目名  | 開講年度      | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|--------|-----------|-------|----|-----|--------|-----|
| 英語 I B | 平成 2 6 年度 | 林 浩士  | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必   |

[授業のねらい]

中学校で学習した知識・技能を活用し、幅広い話題について英語で読んだり、聞いたりする能力を養うとともに、異文化に対する理解を深め、コミュニケーションの手段として積極的に外国語を活用しようとする態度を育てる。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標(A)＜視野＞＜意欲＞及び(C)＜英語＞に対応する。

前期

- 第1週 ガイダンス / 効果的な学習方法  
Chapter 1: Coexistence (1) – Get ready 学習の進め方について
- 第2週 Chapter 1: Coexistence (2) – Part 1 – Part 2  
【文法】現在完了形
- 第3週 Chapter 1: Coexistence (3) – Part 3 – Review  
【文法】動名詞
- 第4週 Chapter 2: Challenge & Dreams (1)  
【文法】不定詞(副詞的用法)
- 第5週 Chapter 2: Challenge & Dreams (2)  
【文法】過去分詞(後置修飾)
- 第6週 Chapter 2: Challenge & Dreams (3)  
文法・表現に関するExercise
- 第7週 Chapter 3: The Science of Reading Aloud (1)  
【文法】関係代名詞 who
- 第8週 中間試験
- 第9週 Chapter 3: The Science of Reading Aloud (2)  
【文法】SV+現在分詞
- 第10週 Chapter 3: The Science of Reading Aloud (3)  
文法・表現に関するExercise
- 第11週 Chapter 4: Appreciating Japanese Culture (1)  
【文法】seem to …
- 第12週 Chapter 4: Appreciating Japanese Culture (2)  
【文法】It(形式主語) is that … の文
- 第13週 Chapter 4: Appreciating Japanese Culture (3)  
文法・表現に関するExercise
- 第14週 Chapter 5: The Surprising History of Food (1)  
【文法】SV+過去分詞
- 第15週 Chapter 5: The Surprising History of Food (2)  
【文法】同格 that

後期

- 第1週 Chapter 6: Friendship & Self-esteem (1)  
【文法】関係代名詞 what
- 第2週 Chapter 6: Friendship & Self-esteem (2)  
【文法】SVO(疑問詞節)
- 第3週 Chapter 6: Friendship & Self-esteem (3)  
文法・表現に関するExercise
- 第4週 Chapter 7: Saving the Environment (1)  
【文法】過去完了形
- 第5週 Chapter 7: Saving the Environment (2)  
【文法】have + O + 動詞(原形)
- 第6週 Chapter 7: Saving the Environment (3)  
文法・表現に関するExercise
- 第7週 Chapter 8: Creativity (1)  
【文法】分詞構文
- 第8週 中間試験
- 第9週 Chapter 8: Creativity (2)  
【文法】have + O + 過去分詞
- 第10週 Chapter 8: Creativity (3)  
文法・表現に関するExercise
- 第11週 Chapter 9: Respecting Life & Living in Peace (1)  
【文法】過去完了の受け身
- 第12週 Chapter 9: Respecting Life & Living in Peace (2)  
【文法】関係副詞 where
- 第13週 Chapter 9: Respecting Life & Living in Peace (3)  
文法・表現に関するExercise
- 第14週 Chapter 10: Rethinking Communication (1)  
【文法】現在完了進行形
- 第15週 Chapter 10  
【文法】仮定法



| 授業科目名        | 開講年度     | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|--------------|----------|-------|----|-----|--------|-----|
| 英語 I B (つづき) | 平成 26 年度 | 林 浩士  | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必   |

|   |  |
|---|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>&lt;英語運用能力&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「授業内容」に示した教科書の英文の内容が理解できる。</li> <li>英文の内容に関して簡単な質疑応答が英語でできる。</li> <li>教科書の英文に使用されている英単語・熟語の意味を理解し、使用できる。</li> <li>既習の英語表現を使用し、基本的な英文が作成できる。</li> </ol> <p>&lt;文法に関する理解&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>文の構成要素、5 文型が理解できる。</li> <li>基本時制、進行形が理解できる。</li> <li>現在・過去・未来完了形が理解できる。</li> <li>完了進行形が理解できる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>受動態が理解できる。</li> <li>不定詞の用法が理解できる。</li> <li>動名詞の用法が理解できる。</li> <li>分詞の用法が理解できる。</li> <li>関係代名詞が理解できる。</li> <li>仮定法が理解できる。</li> </ol> <p>&lt;語彙力&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1500 語レベルの英語語彙の意味が理解できる。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>社会、科学、文化などに関する英文の内容を理解する読解力・聴解力、内容に関する質問に答えたりできる日本語および英語でのコミュニケーション能力を身につけている。</p>  | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>3 技能（読む・書く・聞く）及び文法に関する「知識・能力」1～15 の確認を小テストおよび中間試験、期末試験で行う。1～15 に関する重みは概ね均等である。4 回の定期試験の結果を 7 割、授業中に行われる小テスト等の結果、課題等を 3 割とした総合評価において 6 割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>  |
| <p>[注意事項]</p> <p>本科目は英語 II A および英語 II B の基礎となるものである。教科書英文の音読を含めた予習をし、積極的に授業に参加すること。授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を用意すること。</p>   |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校 3 年間で学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>   |  |
| <p>[レポート等]</p> <p>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す。</p>  |  |
| <p>教科書：NEW STREAM English Communication I（Workbookを含む）（増進堂）</p> <p>参考書：五訂版 チャート式シリーズ DUALSCOPE High School デュアルスコープ総合英語(数研出版)</p>   |  |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を 60%，小テストの結果を 30%，提出課題を 10%として、それぞれの学期毎に評価し、これらの平均値を最終評価とする。但し、学年末試験を除く 3 回の試験について 60 点に達していない学生については再試験を行い、60 点を上限としてそれぞれの試験の成績に置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で 60 点以上を取得すること。</p>  |  |

| 授業科目名       | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数      | 必・選 |
|-------------|--------|-------|----|-----|----------|-----|
| 保健体育（武道・剣道） | 平成26年度 | 細野 信幸 | 1  | 通年  | 履修単位4（2） | 必   |

[授業のねらい]

「剣道」は古来より「礼に始まり、礼に終わる」と言われるように常に礼を尊び厳格な礼儀作法で行われてきたことから、現代、礼儀を重んじる態度を育成するのに特に効果的である。剣道を通じて武道の精神を理解し、楽しく取り組める剣道の指導に心がけたい。

[授業の内容]

前後期共に第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 剣道の意義と特性（安全上の諸注意）
- 第2週 授業（剣道）目標（ねらい）
- 第3週 授業内容と方法
- 第4週 授業内容と方法
- 第5週 剣道用具とその取り扱い方法及び作法
- 第6週 竹刀について
- 第7週 防具の着け方（垂・胴・面・小手）
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 礼の仕方（坐礼・立礼）
- 第10週 竹刀の下げ方と中段の構え方
- 第11週 修練及び試合における始めと終わりの作法
- 第12週 構えについて（姿勢・竹刀の保持）
- 第13週 構えの解説（五行の構えについて）
- 第14週 体さばきの実際（足運びの練習）
- 第15週 打撃の基礎修練法（素振り）

後期

- 第1週 稽古方法とその心得（健康と安全）
- 第2週 基本打突の実際（基本打突について）
- 第3週 各部位の打突について（打ち方・受け方）
- 第4週 気・剣・体一致の打突について
- 第5週 有効打突を判断する要素
- 第6週 応じ技・鏝迫り合い・体当たり
- 第7週 稽古の心得
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 試合に臨む心得
- 第10週 試合規則の説明と実践
- 第11週 試合規則並びに審判規則の理解
- 第12週 校内武道大会
- 第13週 試合規則の習得と実践
- 第14週 試合規則の習得と実践
- 第15週 授業の総括（反省と今後の課題）

| 授業科目名         | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数      | 必・選 |
|---------------|--------|-------|----|-----|----------|-----|
| 保健体育（剣道）（つづき） | 平成26年度 | 細野 信幸 | 1  | 通年  | 履修単位4（2） | 必   |

|   |   |
|---|---|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 剣道の意義と特性を理解し、積極的に声を出し授業に取り込むことができる。</li> <li>2. 授業の内容と方法を理解し、行動することができる。</li> <li>3. 剣道用具（防具・竹刀・剣道着・袴）の着装に対する理解と、正しく取り扱うことができる。</li> <li>4. 竹刀の名称の理解と、正しく組み立てることができる。</li> <li>5. 礼に対する理解と、正しく行動ができる。</li> <li>6. 構えに対する理解と、実際に正しく構えることができる。</li> <li>7. 体さばきの理解と、正しく行動ができる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 稽古方法に対する理解と行動ができる。</li> <li>9. 基本的な打ち方（竹刀操作）の心得と説明ができる。</li> <li>10. 気・剣・体一致の理解と打突ができる。</li> <li>11. 間合いについての理解と行動ができる。</li> <li>12. 技に対する実際と、内容を理解している。</li> <li>13. 稽古に対する心構えと試合に対する心得を理解している。</li> <li>14. 試合及び審判規則の理解ができる。</li> <li>15. 校内武道大会で日頃修練した技を発揮し悔いのない試合ができる。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>武道（剣道）の精神を理解し、礼儀作法を身に付け剣道用具を正しく取り扱うことができ、剣道のルール、体さばきや竹刀の振り方などの基本となる技術を習得している。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～15の確認を授業時間内に行う。また、授業において基本となる技術の習得を確認するための簡単な実技テストも行う。「知識・能力」の重みに関しては、武道の基本となる3.9.の項目を重視するが、他は概ね均等とする。体育実技・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする。</p>   |
| <p>[注意事項]</p> <p>「剣道」は竹刀を使用して打突し合う競技であるため力まかせな行為に陥りやすい。楽しく競技するためには相手の人格を尊重する態度が他のスポーツに比べ一層重要となる。竹刀で打突するため、注意していても軽い打撲はつきものであるが、竹刀の破損による事故は競技者にとって致命傷になりかねない。したがって、授業中何度も竹刀のチェックをし、安全管理に心がけるようにすること。本教科は後に学習する保健体育（2年）の基礎となる教科である。</p>   |   |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>入学後ごく簡単な基礎的知識を習得する段階から入るので、頑張る気持ちさえあれば問題はない。</p>  |   |
| <p>[レポート等]</p> <p>改めてレポート等の提出を求めることはないが、初めて経験する授業と思われるので、できればその日に学んだことをノート等に記録しておくと思われ。</p>   |   |
| <p>教科書：</p> <p>参考書：</p>   |   |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>武道の成績は体育実技・保健と合わせ（内訳は武道（剣道）5割，体育実技・保健5割），この授業で習得する知識・能力の達成度を評価する。ただし、100点のうち技能以外に個人が授業に対する姿勢（学習意欲，向上心等）を20点程度含むものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>実技科目なので技術の修得が第一条件ですが，学習への取り組む姿勢も含め評価し，60点以上を取得すること。</p>   |   |

| 授業科目名       | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数      | 必・選 |
|-------------|--------|-------|----|-----|----------|-----|
| 保健体育（武道・柔道） | 平成26年度 | 前川 忠秀 | 1  | 通年  | 履修単位4（2） | 必   |

[授業のねらい]

「柔道」の基本動作の反復練習により、自己の能力にあった得意技を体得させ、相手の動きや技に応じた攻防を工夫し、お互いに協力、教えあいなどにより自主的・意欲的に練習が出来るようにする。また、練習・試合を通じてお互いに相手を尊重し、礼儀正しい態度を養う。

[授業の内容]

前後期共に第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する

前期

- 第1週 柔道の知識（歴史、意義と練習の目的、練習の目的、授業の内容）
- 第2週 柔道衣の取り扱い方（着方、たたみ方）礼法
- 第3週 後受身（単独、2人一組による）
- 第4週 横受身（単独、2人一組による）
- 第5週 前受身、前回り受身
- 第6週 姿勢（自然体、自護体）組み方、歩き方
- 第7週 崩し、力の用法、作りと掛け、体さばき
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 投げ技について（禁止事項、練習の仕方）
- 第10週 膝車（掛け、横受身、相対動作による受身と掛け）
- 第11週 大腰（掛け、横受身、相対動作による受身と掛け）
- 第12週 相対動作による受身、掛け（確認）
- 第13週 固め技の基本（特色、練習の仕方、禁止事項）
- 第14週 本袈裟固（基本と応じ方）
- 第15週 崩袈裟固（基本〈5種類〉と応じ方）

後期

- 第1週 横四方固（基本と応じ方）
- 第2週 崩上四方固（基本と応じ方）
- 第3週 抑え技の攻め方について（四つんばいの体勢→頭部から攻めて抑える。）
- 第4週 抑え技の攻め方について（横向きの体勢→体側、背面から攻めて抑える。）
- 第5週 上四方固（基本と応じ方）
- 第6週 肩固（基本と応じ方）
- 第7週 得意技の習得（反復打込、乱取）
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 得意技の連絡変化（得意技→他の技）「例：袈裟固め→横四方固め」
- 第10週 審判規程の説明、試合における礼法、試合練習
- 第11週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第12週 校内武道大会
- 第13週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第14週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第15週 授業の総括（反省と今後の課題）

| 授業科目名         | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数      | 必・選 |
|---------------|--------|-------|----|-----|----------|-----|
| 保健体育（柔道）（つづき） | 平成26年度 | 前川 忠秀 | 1  | 通年  | 履修単位4（2） | 必   |

|  |  |
|--|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 柔道の知識を理解し、積極的に授業に取り込むことができる。</li> <li>2. 授業の内容と方法を理解し、行動することができる。</li> <li>3. 柔道衣の取り扱いの理解と、正しく着装ができる。</li> <li>4. 受け身の名称の理解と大切さ、そして正しく行動ができる。</li> <li>5. 基本的な姿勢（組み方、歩き方）に対する理解と行動ができる。</li> <li>6. 投げ技に対する（禁止事項、練習の仕方）理解と、心構えができる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 練習方法に対する理解と行動ができる。</li> <li>8. 基本的な抑え技の心得と説明ができる。</li> <li>9. 抑え技の理解と合理的な行動ができる。</li> <li>10. 抑え技の連絡と変化を理解することができる。</li> <li>11. 練習に対する心構えと試合に対する心得が理解できる。</li> <li>12. 試合に臨む心得・及び審判規則が理解できる。</li> <li>13. 校内武道大会で日頃修練した技を發揮し悔いのない試合ができる。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>柔道の知識・規則を理解し、受身・投げ技・抑え技などの基本となる技術を正確に体得し、様々な技の特性を理解し自己の能力にあった得意技を反復練習により身に付け、練習・試合の中で実行することができる。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～13の確認を授業時間内に行う。「知識・能力」の重みに関しては、安全な授業進行のため4. 6. 9. 10. の項目を重視するが、他は概ね均等とする。体育実技・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする。</p>  |
| <p>[注意事項]</p> <p>柔道衣の安全や清潔を確かめ、禁止技を用いないなど、健康や安全に配慮して練習を行うこと。</p>   |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>柔道の基礎的知識から指導するので特に必要なし。本教科は後に学習する保健体育（2年）の基礎となる教科である。</p>  |  |
| <p>[レポート等]</p> <p>改めてレポート等の提出を求めることはないが、初めて経験する授業と思われるので、できればその日に学んだことをノート等に記録しておくと思われ。</p>  |  |
| <p>教科書：</p> <p>参考書：</p>  |  |
| <p>学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>武道の成績は体育実技・保健と合わせ（内訳は武道（剣道）5割、体育実技・保健5割）、この授業で習得する知識・能力の達成度を評価する。ただし、100点のうち技能以外に個人が授業に対する姿勢（学習意欲、向上心等）を20点程度含むものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>実技科目なので技術の修得が第一条件ですが、学習への取り組む姿勢も含め評価し、60点以上を取得すること。</p>   |  |

| 授業科目名    | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数      | 必・選 |
|----------|--------|-------|----|-----|----------|-----|
| 保健体育（保健） | 平成26年度 | 舩越 一彦 | 1  | 通年  | 履修単位4(1) | 必   |

[授業のねらい]

「保健」の授業では、現代社会の健康、生涯を通じる健康、集団の生活における健康についての理解を深め、健康の保持増進を図り、集団の健康を高めることに寄与する能力と態度を養う。

[授業の内容]

以下の内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 授業内容説明
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 スポーツテスト
- 第4週 食事と健康（糖質）
- 第5週 食事と健康（脂質）
- 第6週 食事と健康（蛋白質）
- 第7週 食事と健康（ビタミン・ミネラル）
- 第8週 栄養素のまとめ
- 第9週 喫煙と健康
- 第10週 飲酒と健康
- 第11週 薬物乱用
- 第12週 医薬品と健康
- 第13週 生涯を通じる健康と家庭生活
- 第14週 免疫機能の働き
- 第15週 95分水泳のテスト

後期

- 第1週 思春期と性
- 第2週 性機能とその成熟
- 第3週 受精・妊娠
- 第4週 出産の生理
- 第5週 結婚と家族計画
- 第6週 性感染症
- 第7週 エイズ
- 第8週 体育祭に振替
- 第9週 救急法の基礎知識
- 第10週 気道の確保と人工呼吸
- 第11週 心肺蘇生法
- 第12週 出血の処置
- 第13週 急病人の応急手当
- 第14週 運動中に起こりやすいけがの処置
- 第15週 救急法のまとめ

| 授業科目名         | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数      | 必・選 |
|---------------|--------|-------|----|-----|----------|-----|
| 保健体育（保健）（つづき） | 平成26年度 | 舩越 一彦 | 1  | 通年  | 履修単位4(1) | 必   |

|  |  |
|--|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事ではどのようなものを食べるのかということと同様に、どのような食べ方をするのが健康につながるかを理解している。</li> <li>2. 心身に悪影響を及ぼす喫煙、飲酒、薬物乱用に対し正しい知識を身につけている。</li> <li>3. 思春期に強く現れる心のゆれや性意識、性的欲求による不安や変化は自立や自律へ向かう成長期であることを理解している。</li> <li>4. 男性女性の性機能の仕組みと働きについて理解している。</li> <li>5. 受精、妊娠、出産のメカニズムを理解し、相手の立場に立って性を考えることができる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 家族計画の意義、避妊法、人工妊娠中絶について正しい知識を身につけている。</li> <li>7. 性感染症の予防対策を理解している。</li> <li>8. 突然の事故や急な発病の際の適切な対応の意義と原則について理解している。</li> <li>9. 心肺蘇生法の原理と方法について理解している。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>授業で学んだ基本的事項を理解し、自分の日常生活とを照らし合わせて考えることができる。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～9を網羅した問題を2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。武道、体育実技と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したレベルとする。</p>  |
| <p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 95分の中で保健と実技を行うので、保健に費やす時間は1回あたり40分程度である。但し、ビデオ教材を使うときなどは、95分間保健を行う場合がある。</li> <li>2. 実技の進行状況によって内容と時間配分が変わることがある。</li> <li>3. 本教科は後に学習する保健体育（2年）の基礎となる教科である。</li> </ol>  |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校で学んだ保健の内容及び一般常識</p>   |  |
| <p>[レポート等]</p> <p>特になし</p>   |  |
| <p>教科書：「運動と健康の科学」</p> <p>参考書：「図説現代高等保健」</p>  |  |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>95分で保健と実技を行うため、保健の試験は全期末と学年末の2回のみ実施する。保健単独で試験を行うが、保健体育全般としての評価は、保健25%及び体育実技25%で全体の50%、武道50%を合わせて総合的に評価する。その中には平常の学習に取り組む姿勢・意欲等も評価の対象として含まれる。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記評価方法により60点以上取得すること</p>  |  |

| 授業科目名    | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数      | 必・選 |
|----------|--------|-------|----|-----|----------|-----|
| 保健体育（実技） | 平成26年度 | 舩越 一彦 | 1  | 通年  | 履修単位4(1) | 必   |

[授業のねらい]

「体育実技」では、成長期であるこの時期に運動を通して基礎体力を高め、心身の調和的発達を促すとともに、生涯を通じて運動を楽しむ、健康な生活を営む態度を育てる。

[授業の内容]

以下の内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 授業内容説明
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 スポーツテスト
- 第4週 スポーツテスト
- 第5週 バasketボール（基本）
- 第6週 バasketボール（シュート、パス）
- 第7週 バasketボール（攻守の動き）
- 第8週 バasketボール（試合）
- 第9週 バasketボール（試合）
- 第10週 バasketボール（試合）
- 第11週 バasketボール実技試験
- 第12週 水泳（基礎練習）
- 第13週 水泳（クロール）
- 第14週 水泳（平泳ぎ）
- 第15週 水泳実技試験

後期

- 第1週 体育祭の種目練習
- 第2週 走高跳（跳躍練習）
- 第3週 走高跳（跳躍練習）
- 第4週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第5週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第6週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第7週 100m走計測及びサッカー（試合）
- 第8週 体育祭に振替
- 第9週 卓球（基本）
- 第10週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第11週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第12週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第13週 2000m計測
- 第14週 卓球（リーグ戦）
- 第15週 卓球（リーグ戦）



| 授業科目名         | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数      | 必・選 |
|---------------|--------|-------|----|-----|----------|-----|
| 保健体育（実技）（つづき） | 平成26年度 | 舩越 一彦 | 1  | 通年  | 履修単位4(1) | 必   |

|   |   |
|---|---|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種目におけるルール・特性を理解し、積極的に授業に取り組むことができる。</li> <li>2. 安全に留意し、マナーを重んじ礼儀正しい態度で練習やゲームに参加することができる。</li> <li>3. スポーツテストにより自分の体力を把握し、運動能力の向上に努めることができる。</li> <li>4. バasketボールにおいてディフェンス、オフェンスの基本的な動きができる。</li> <li>5. バasketボールにおいてシュートの基本動作ができる。</li> </ol>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 水泳において基本的な泳力を身につけている。</li> <li>7. 走高跳、100走により自分の能力を把握し、成長に伴う運動能力の向上に努めることができる。</li> <li>8. サッカーにおいて自分たちで試合運営ができる。</li> <li>9. 長距離走において必要な持久力を鍛え、完走できる。</li> <li>10. 卓球において、ダブルスのルールを把握し、協力して試合ができる。</li> <li>11. 体育祭などにおいて日頃の努力を発揮し、結果を残すことができる。</li> <li>12. 準備体操で行う様々な体幹の動きを身につける。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>バasketボール、サッカー、卓球のルールの理解が確実で、身につけた様々な技術を練習・試合の場で積極的に発揮してスポーツを楽しむことができ、また併せて水泳、高跳、100m走、長距離走により基礎体力を身につけている。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～11の確認を授業時間内において行う。<br/> 「知識・能力」の重みに関しては、授業機会の多い4・5・6・7・10を重視するが、他はおおむね均等とする。<br/> 武道・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したレベルとする。</p>  |
| <p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実技の説明をよく聞き、また準備体操をしっかりと行うことにより、不注意による事故やけがを未然に防ぐようにする。</li> <li>2. 授業種目に応じて学校指定の衣類（ジャージ、運動靴、体育館シューズ、水着など）を着用すること。</li> <li>3. 授業終了後は速やかに更衣し、次の授業に遅れないようにすること。</li> <li>4. けがや、体調不良によりやむなく見学する場合も自分が手伝えること（タイムの計測、準備、後かたづけ等）を見つけて積極的に授業に参加する。（原則として見学者も指定のジャージに着替える事が望ましい）</li> <li>5. 天候によって内容と時間配分が変わります。（雨天時はバasketボールなど球技を行います）</li> <li>6. 1コマの中で保健と実技を行うので、実技に費やす時間は1回あたり55分程度です。<br/> 但し、水泳等は保健なしで実技を行う場合があります。</li> <li>7. 本教科は後に学習する保健体育（2年）の基礎となる教科である。</li> </ol> |   |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>各スポーツの基本的なルールを覚えておくことが望ましい</p>  |   |
| <p>[レポート等]</p> <p>骨折や入院等で長期間欠席や見学をした場合のみレポートを提出する。</p>  |   |
| <p>教科書：特になし</p> <p>参考書：ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）</p>   |   |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>バasketボールはドリブルシュート、水泳・100m・走高跳・長距離走は記録、卓球はリーグ戦成績で評価するが、保健体育全体の評価としては、保健理論25%及び体育実技25%で全体の50%、武道50%を合わせて総合的に評価する。その中には平常の実技に取り組む姿勢・意欲等も含む。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記の評価方法により60点以上を取得すること。</p>   |   |

| 授業科目名 | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 美術    | 平成26年度 | 浅井 清貴 | 1  | 通年  | 履修単位2 | 選   |

[授業のねらい]

芸術とは、毎日の暮らしの中で運命に流されている自分を止め、自らに問いかけ、生まれ、老い、死んでいくかけがえのない人生を慈しみ、明日へのエネルギーを汲み出し、自己を変革する行為であることを理解する。美術はそのために必要な創造力と感性を養い、発想を豊かにし「美しく生きるとは何か」を考え形にする。又情操教育の一環として情緒を高度に確立する。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標（A）の〈視野〉に対応する。

前期

1 美術史（講義）

- 第 1 週 芸術とは何か（概論）
- 第 2 週 人類は何故描くのか
- 第 3 週 1. 画家の誕生と天才たちの饗宴  
2. 芸術福祉（講義）
- 第 4 週 今、なぜ芸術福祉なのか
- 第 5 週 障害者のアート（アウトサイダーアート）

3 静物画（制作）

- 第 6 週 不自由体験（利き腕以外での制作）
- 第 7 週 //
- 第 8 週 //

4 アニメーション

- 第 9 週 CG. 動画的表現の説明（ビデオ）
- 第 10 週 オリジナルキャラクターの制作
- 第 11 週 動画の制作
- 第 12 週 動画の制作
- 第 13 週 動画イラストの制作
- 第 14 週 //
- 第 15 週 //

後期

5 モダンアート（講義）

- 第 1 週 近代美学の成立（モダンアート）
- 第 2 週 // 印象派
- 第 3 週 抽象絵画の制作（キュビズム）

6 アブストラクション

- 第 4 週 抽象絵画の制作
- 第 5 週 //

7 現代美術（講義）

- 第 6 週 コンテンポラリーアート
- 第 7 週 アート&テクノロジー
- 第 8 週 パフォーマンスを組み立てる（ビデオ）グループ学習

8 仮面舞踏会

- 第 9 週 舞台美術（面を作り面で舞う）
- 第 10 週 //
- 第 11 週 //

9 メディアアート（コラボレーション）

- 第 12 週 舞踏パフォーマンス
- 第 13 週 //

10 生活環境とデザイン（ユニバーサルデザイン）

- 第 14 週 未来の夢デザイン（ポスター等）
- 第 15 週 //

| 授業科目名   | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|---------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 美術（つづき） | 平成26年度 | 浅井 清貴 | 1  | 通年  | 履修単位2 | 選   |

|  |  |
|--|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美術史を理解している。</li> <li>2. 泰西名画に学び、鑑賞能力がある</li> <li>3. 自然を見つめ自然に学ぶことができる。</li> <li>4. 障害者芸術の魅力を理解している。</li> <li>5. 不自由な制作を体験している。</li> <li>6. 多様な現代の美術を理解している。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>7. ビジュアルラングエッジを理解し、アートの感性を高める</li> <li>8. CG.アニメ・動画的表現ができる。</li> <li>9. 近未来のアートを表現することができる。</li> <li>10. 未来への創造的思考能力を発揮することができる。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>美術史を総合的に理解し、加えて現代社会を生きていく上での創造力をそなえ、豊かな感性を身に付け、未来の創意工夫を考えることができる。</p>  | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～10を網羅した問題を2回の定期試験と8～10点の制作作品を課し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験・制作を課す。</p>                             |
| <p>[注意事項] 芸術意味をよく理解し、各々の制作課題と真剣に取り組む態度が必要である。</p>  |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校の日本史、世界史</p>   |  |
| <p>[レポート等] 長期休暇中の課題としてテーマを決めた絵画、ポスター等、制作途中作品の完成を課す場合がある。</p>   |  |
| <p>教科書：「Art and You 創造の世界へ」小澤基弘（日文）、「美術Ⅰ」酒井忠康・他著（光村図書）<br/> 参考書：「西洋美術史」高階秀爾著（美術出版社）、「芸術と美学」R. シュタイナー著（平河出版社）</p>   |  |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>期末の試験結果の平均値を20%、8点の制作課題（パフォーマンス含む）による採点を80%とする。再試験は行わない。</p> <p>[単位修得要件] 与えられた制作課題を提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>   |  |

| 授業科目名 | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 音楽    | 平成26年度 | 阿部 浩子 | 1  | 通年  | 履修単位2 | 選択  |

[授業のねらい]  
歌唱指導により、より良い発声と、歌詞の内容をよく把握してより良い表現をできるようにし、バロックから近代の音楽の歴史と作曲家、作風を理解する。

| [授業の内容]  |  |
|--|--|
| すべての内容は、学習・教育目標（A）の<視野>に対応する。                    |  |
| 前期   | 後期   |
| 第 1 週 教科書の内容紹介，1年間の授業の流れ                         | 第 1 週 歌唱「赤とんぼ」，交響詩R. シュトラウス交響詩「ツァラツストラかく語りき」 |
| 第 2 週 歌唱指導，発声について，正しい姿勢と腹式呼吸について，西洋音楽史の流れについて    | 第 2 週 「トゥナイト」，プッチーニ オペラ「蝶々夫人」の解説             |
| 第 3 週 歌唱[おおシャンゼリゼ]バロック音楽について                     | 第 3 週 Video鑑賞 オペラ「蝶々夫人」                      |
| 第 4 週 歌唱[翼を下さい] ヘンデル「ハープ協奏曲」作曲家，作品を解説，CD鑑賞后感想文提出 | 第 4 週 Video鑑賞 オペラ「蝶々夫人」感想文                   |
| 第 5 週 「負けないで」Bach[トッカーターとフーガ]                    | 第 5 週 「星に願いを」，ラフマニノフ「ピアノ協奏曲2」                |
| 第 6 週 「花の街」古典派の音楽                                | 第 6 週 「待ちぼうけ」，近代の音楽について                      |
| 第 7 週 [Sound of Music] モーツァルトについて Sym. 40        | 第 7 週 「White Christmas」，ドビッシュー「夢・月の光・沈める寺」   |
| 第 8 週 「カントリー・ロード」Beethoven Sym9                  | 第 8 週 「メモリー」，ラヴェル「夜のガスパール」                   |
| 第 9 週 Musical について[Sound of Music]内容紹介，Video鑑賞   | 第 9 週 「一晩中踊れたら」，ガーシュイン「ラブソディー インブルー」         |
| 第10週 Video鑑賞[Sound of Music]                     | 第10週 「早春賦」，西洋音楽史の流れについて「まとめ」                 |
| 第11週 Video鑑賞[Sound of Music] 感想文提出               | 第11週 「ホール・ニュー・ワールド」 ギター名曲集「アレンジス協奏曲」         |
| 第12週 「野ばら」，ロマン派の音楽                               | 第12週 「アニー・ローリー」，J.ウィリアムズ「スターウォーズ」組曲          |
| 第13週 「世界にひとつだけの花」Schubert「魔王，野ばら，ます他」            | 第13週 1年間勉強した歌の総練習                            |
| 第14週 「未来へ」 ショパン作曲「子犬のワルツ，革命，英雄ポロネーズ」他            | 第14週 歌唱テスト                                   |
| 第15週 オペレッタの解説 J. シュトラウス I 世、II 世 鑑賞感想文           | 第15週 Video鑑賞 「マイ フェア レディー」感想文                |

| 授業科目名   | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|---------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 音楽（つづき） | 平成26年度 | 阿部 浩子 | 1  | 通年  | 履修単位2 | 選択  |

|   |  |
|---|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発声についてよく理解し積極的に声を出せる。</li> <li>2. リズミカルな曲の楽しさを表現して歌える。</li> <li>3. 歌詞の内容をよく理解し表現豊かに歌える。</li> <li>4. バロック、古典派、前期ロマン派の西洋音楽史の流れを把握し、理解している。</li> <li>5. 各時代の時代背景、音楽的内容について理解している。</li> <li>6. 各時代の作曲家について理解している。（Bach, Haendel, Mozart, Beethoven, Schubert, Chopin）他</li> <li>7. 各時代の作品について理解している。</li> <li>8. ミュージカルについて理解している。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 交響詩の形態について理解している。</li> <li>10. オペラについて理解している。</li> <li>11. 後期ロマン派、近代の音楽について流れを把握し理解している。</li> <li>12. 時代背景、音楽的内容について理解している。</li> <li>13. 作曲家について理解している。（R. シュトラウス、プッチーニ、ラフマニノフ、ドビュッシー、ラヴェル）</li> <li>14. 作品について把握している。</li> <li>15. 正しい発声に基づいて、リズム音程を把握した上で、歌詞の内容をよく理解し、表現豊かに歌える。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>西洋音楽史のバロックから近代までの流れを把握し、作曲家とその作品を理解し、また歌の内容をよく考えそれを表現して歌える。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～15の確認を、2回の定期試験と歌の実技テスト、CDやビデオの鑑賞の感想文提出、ノート提出により行う。合計点の60%の得点で目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>  |
| <p>[注意事項] 歌唱にあたっては、姿勢を正しくし横隔膜を下げ、お腹を膨らますようにして息を吸い込み、横隔膜や腹筋で支えて声を出す。</p>   |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学修了程度</p>   |  |
| <p>[レポート等]</p> <p>感想文の提出を求める。</p>   |  |
| <p>教科書：高校の音楽1，改訂新版 山本文茂ほか5名著 音楽の友社<br/>参考書：</p>   |  |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>2回の期末試験結果の平均値50%，実技テスト，鑑賞の感想，ノート50%で評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題レポートを提出し，学業成績で60点以上を取得すること。</p>  |  |

| 授業科目名 | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 書道    | 平成26年度 | 樋口弓弦  | 1  | 通年  | 履修単位2 | 選   |

[授業のねらい]

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書道芸術に対する理解を深め、書道史や表現、鑑賞の基礎的能力を伸ばす。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標（A）の<視野>に対応する。

前期後期を通じて、15分間ペン習字を取り入れる。

前期

- 第1週 ガイダンス 道具について
- 第2週 楷書の学習 中国・唐代の書家について
- 第3週 楷書 牛厥造像記・鄭義下碑
- 第4週 楷書 雁塔聖教序
- 第5週 楷書 健中造身帖
- 第6週 楷書 創作
- 第7週 行書の学習 東晋の「蘭亭序」（王羲之）について
- 第8週 行書 蘭亭序 2文字
- 第9週 行書 蘭亭序 4文字
- 第10週 平安の「風信帖」（空海）について
- 第11週 日本の行書
- 第12週 創作
- 第13週 刻字の学習
- 第14週 刻字の学習
- 第15週 刻字の学習

後期

- 第1週 篆書の学習
- 第2週 篆書の学習
- 第3週 隸書の学習
- 第4週 隸書の学習
- 第5週 草書の学習
- 第6週 仮名の学習
- 第7週 仮名の学習
- 第8週 仮名の学習
- 第9週 ひらがなの学習
- 第10週 はがきの書き方
- 第11週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第12週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第13週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第14週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第15週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習

| 授業科目名   | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|---------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 書道（つづき） | 平成26年度 | 樋口弓弦  | 1  | 通年  | 履修単位2 | 選   |

|   |   |
|---|---|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 楷書の学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 楷書の成立と基本用筆について理解している。</li> <li>2 臨書を通し古典の特徴や書風を理解している。</li> <li>3 創作により、古典の書風と自己の個性を調和させ表現できる。</li> </ol> <p>2. 行書の学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 行書の成立と基本用筆について理解し、楷書との違いを理解している。</li> <li>2 蘭亭序の臨書を通じて、字体の持つ流動美を把握し、作者王羲之の感性に触れることができる。</li> <li>3 風信帖の臨書を通じて、空海が中国から学んだ王羲之と顔真卿の行書が和風として確立した事を理解している。</li> </ol> <p>3. 草・篆・隸の学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 楷書・草書以外の書体を理解している。</li> <li>2 歴史的背景を理解している。</li> </ol> | <p>4. 漢字仮名交じり書（調和体）の学習</p> <p>自分の好きな言葉を、漢字と仮名の調和を大切にしながら&lt;私らしく&gt;表現し、作品制作できる。</p> <p>5. ペン習字</p> <p>日々の実用書体として、基本点画をしっかり練習し、文字の筆順の原則、結構の原理に基づいて書くことができる。</p> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>楷書、行書、漢字仮名交じり（調和体）の書及び、ペン習字について、理論的実技的に特徴を理解し、書道史の流れを把握・習得している。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～5の確認を、前期後期の2回の期末試験と授業中の実技試験で行う。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で目標達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>                            |
| <p>[注意事項]</p> <p>古今の名跡に接し鑑賞することは“目習い”と言い、視覚的感受性によってその作品を深く味わうこと。</p> <p>臨書は古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を観て真似て書くこと。創作はそこから感じる各々の個性を取り入れながら作品を作り出すこと。一件単純な作業の繰り返しだが、コツコツと学習し努力する姿勢を忘れず、授業に取り組んで欲しい。</p> <p>最初の授業に中学校まで使用していた書道用具を持参すること。夏休み・冬休みは宿題あり。</p>  |   |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>小・中学校で培われてきた書写力</p>   |   |
| <p>[レポート等]</p>  |   |
| <p>教科書：「高校書道Ⅰ」（教育出版）</p> <p>参考書：</p>  |   |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>年2回の期末試験結果を30%、提出作品、学習への取り組み姿勢等を70%として、それぞれの期間毎総合的に評価し、これらの平均値を最終評価とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を修得すること。</p>  |   |

| 授業科目名 | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|-------|--------|-------|----|-----|--------|-----|
| 基礎数学B | 平成26年度 | 伊藤 清  | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必   |

[授業のねらい]

中学ですでにある程度学んでいる二次関数と二次方程式、二次不等式の性質、そして二変数の二次以下の方程式・不等式で表される平面図形、個数の処理について学ぶ。すなわち、二次関数とそのグラフ・二次方程式・二次不等式などを系統的に理解し自在に扱えるだけの学力をつけ、日常生活や確率で使うことの多い、場合を分けあらゆる可能性を考えられる能力を身につける事を目指す。

[授業の内容]

全ての内容は、学習・教育目標 (B) <基礎> と Jabee 基準  
1の(1)(c)に対応する。

前期

- 第1週 授業の概要、関数とグラフ、標準形で表された二次関数
- 第2週 グラフの平行移動と二次式の平方完成
- 第3週 二次関数の最大値・最小値の求め方
- 第4週 二次方程式、その解の公式の導き方
- 第5週 負の数の平方根としての虚数の発見、二次方程式の解の公式と虚数解
- 第6週 虚数単位と複素数、複素数の四則演算、共役複素数と絶対値
- 第7週 解と係数の関係とその応用
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 二次関数のグラフとx軸との上下関係と判別式
- 第10週 放物線と直線が接するための条件、交わるための条件
- 第11週 二次不等式、そのグラフによる解法
- 第12週 連立一次不等式
- 第13週 連立二次不等式
- 第14週 数直線上の二点間の距離と内分・外分する公式
- 第15週 平面上の二点間の距離と内分・外分公式、三点の重心

後期

- 第1週 一次方程式としての直線の方程式
- 第2週 二直線の平行・垂直条件
- 第3週 円とその方程式
- 第4週 円と直線、または二円が交わったり接する条件
- 第5週 アポロニウスの円、
- 第6週 だ円と焦点
- 第7週 双曲線と焦点、漸近線
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 不等式が表す領域
- 第10週 場合の数の考え方と和の法則、積の法則
- 第11週 順列、階乗
- 第12週 重複順列、円順列
- 第13週 組み合わせ
- 第14週 二項定理
- 第15週 場合の数の演習



| 授業科目名       | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-------------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 基礎数学B (つづき) | 平成26年度 | 伊藤 清  | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必   |

|   |   |
|---|---|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>この授業の内容は全て学習・教育目標(B)＜基礎＞に対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実数に対し実数に対応させる操作である関数の概念を把握している。</li> <li>2. グラフに平行移動や鏡映等を行なうために、グラフの方程式の変数 <math>x</math>、<math>y</math> にどんな操作をしたらよいか理解している。</li> <li>3. 二次関数の標準形への変形(平方完成)が具体例でなら確実にでき、そのグラフをかくことができる。</li> <li>4. 二次方程式の解の公式の証明が導け、解の公式を使える。</li> <li>5. 複素数の四則演算ができる。</li> <li>6. 二次関数のグラフと二次式の判別式との関係を理解し、二次方程式の解の判別が行える。</li> <li>7. 一次・二次不等式をグラフを用いて解くことができる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 内分・外分の公式を理解し使える。</li> <li>9. 一次式=0で定義される直線を理解し、平行条件・垂直条件を使うことができる。</li> <li>10. 円の方程式を理解し使える。</li> <li>11. 円と直線が接する条件を理解している。</li> <li>12. 座標軸に長軸が平行な楕円や主軸が平行な双曲線の方程式を理解し使える。</li> <li>13. 二次以下の不等式で定義される簡単な領域を理解している。</li> <li>14. 和の法則・積の法則を理解し使い分けられることができる。</li> <li>15. 順列・組み合わせを理解し使える。</li> <li>16. 二項定理を使える。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>二次以下の式で定義される方程式・不等式で定義される図形や、場合の数についての基本性質を理解し、自在に扱える。</p>  | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～15を網羅した問題からなる中間試験、定期試験および小テストおよびレポート・課題による評価で、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とするが評価結果が百分法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>   |
| <p>[注意事項]</p> <p>積極的な取り組みを期待する。疑問点は授業中・放課後に質問するなどして、よく理解してから次の授業に臨むこと。授業中にも問題演習は行うが、教授内容にとどまらず練習問題・指定問題集の問題をたくさん解いたり関連図書を読んだりし実力をつけて欲しい。</p>  |   |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>式と計算、グラフと座標、樹形図等を使う力など(中学校で履修)に習熟していること。</p>  |   |
| <p>[レポート等]</p> <p>日々の学習は重要である。宿題や課題も積極的に頻繁に課していくので、誠実に取り組んでもらいたい。</p>   |   |
| <p>教科書：「新編 高専の数学1」(田代嘉宏他 森北出版)、「数学入門(上)」(遠山啓著 岩波書店)。</p> <p>問題集：「基礎数学問題集」(数学教室編集)、ドリルと演習シリーズ「基礎数学」(TAMSプロジェクト4編集)。</p> <p>参考書：「数学入門(下)」(遠山啓著 岩波書店)、「みえる数学の世界1」、「みえる数学の世界2」(山崎 昇監訳 大竹出版)。</p>  |   |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・後期末の4回の評価(試験)の平均点で評価するが、前期末分の25%は夏休み中のレポートが10%夏休み明けに実施する小テストが15%で評価する。レポート・課題等の内容を総合的に判断し、100点満点で評価する。成績不振者は「基礎数学問題集」のA問題を正しく解けることがレポートと小テストで確認できれば最大25%までの不足する点を補えるものとする(ドリルのレポートと小テストで不足する点を補えるのは最大15%までとする)。4回の各評価の再試験による再評価は平均点が60点を下回らないかぎり実施しない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>   |   |

| 授業科目名 | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数    | 必・選 |
|-------|--------|-------|----|-----|--------|-----|
| 基礎数学B | 平成26年度 | 伊藤 清  | 1  | 通年  | 履修単位 2 | 必   |

[授業のねらい]

中学ですでにある程度学んでいる二次関数と二次方程式、二次不等式の性質、そして二変数の二次以下の方程式・不等式で表される平面図形、個数の処理について学ぶ。すなわち、二次関数とそのグラフ・二次方程式・二次不等式などを系統的に理解し自在に扱えるだけの学力をつけ、日常生活や確率で使うことの多い、場合を分けあらゆる可能性を考えられる能力を身につける事を目指す。

[授業の内容]

前期

全ての内容は、学習・教育目標（B）〈基礎〉に対応する。

前期

- 第1週 授業の概要、関数とグラフ、標準形で表された二次関数
- 第2週 グラフの平行移動と二次式の平方完成
- 第3週 二次関数の最大値・最小値の求め方
- 第4週 二次方程式、その解の公式の導き方
- 第5週 負の数の平方根としての虚数の発見、二次方程式の解の公式と虚数解
- 第6週 虚数単位と複素数、複素数の四則演算、共役複素数と絶対値
- 第7週 解と係数の関係とその応用
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 二次関数のグラフとx軸との上下関係と判別式
- 第10週 放物線と直線が接するための条件、交わるための条件
- 第11週 二次不等式、そのグラフによる解法
- 第12週 連立一次不等式
- 第13週 連立二次不等式
- 第14週 数直線上の二点間の距離と内分・外分する公式
- 第15週 平面上の二点間の距離と内分・外分公式、三点の重心

後期

- 第1週 一次方程式としての直線の方程式
- 第2週 二直線の平行・垂直条件
- 第3週 円とその方程式
- 第4週 円と直線、または二円が交わったり接する条件
- 第5週 アポロニウスの円、
- 第6週 だ円と焦点
- 第7週 双曲線と焦点、漸近線
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 不等式が表す領域
- 第10週 場合の数の考え方と和の法則、積の法則
- 第11週 順列、階乗
- 第12週 重複順列、円順列
- 第13週 組み合わせ
- 第14週 二項定理
- 第15週 場合の数の演習

| 授業科目名       | 開講年度   | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数   | 必・選 |
|-------------|--------|-------|----|-----|-------|-----|
| 基礎数学B (つづき) | 平成26年度 | 伊藤 清  | 1  | 通年  | 履修単位2 | 必   |

|  |  |
|--|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>この授業の内容は全て学習・教育目標(B)＜基礎＞に対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実数に対し実数を対応させる操作である関数の概念を把握している。</li> <li>2. グラフに平行移動や鏡映等を行なうために、グラフの方程式の変数 <math>x</math>、<math>y</math> にどんな操作をしたらよいか理解している。</li> <li>3. 二次関数の標準形への変形(平方完成)が具体例でなら確実にでき、そのグラフをかくことができる。</li> <li>4. 二次方程式の解の公式の証明が導け、解の公式を使える。</li> <li>5. 複素数の四則演算ができる。</li> <li>6. 二次関数のグラフと二次式の判別式との関係を理解し、二次方程式の解の判別が正確に行える。</li> <li>7. 一次・二次不等式をグラフを用いて解くことができる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 内分・外分の公式を理解し使える。</li> <li>9. 一次式=0で定義される直線を理解し、平行条件・垂直条件を使うことができる。</li> <li>10. 円の方程式を理解し使える。</li> <li>11. 円と直線が接する条件を理解している。</li> <li>12. 座標軸に長軸が平行な楕円や主軸が平行な双曲線の方程式を理解し使える。</li> <li>13. 二次以下の不等式で定義される簡単な領域を理解している。</li> <li>14. 和の法則・積の法則を理解し使い分けすることができる。</li> <li>15. 順列・組み合わせを理解し使える。</li> <li>16. 二項定理を使える。</li> </ol> |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>二次以下の式で定義される方程式・不等式で定義される図形や、場合の数についての基本性質を理解し、自在に扱える。</p>   | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～15を網羅した問題からなる中間試験、定期試験および小テストおよびレポート・課題による評価で、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とするが評価結果が百分法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>  |
| <p>[注意事項]</p> <p>積極的な取り組みを期待する。疑問点は授業中・放課後に質問するなどして、よく理解してから次の授業に臨むこと。授業中にも問題演習は行うが、教授内容にとどまらず練習問題・指定問題集の問題をたくさん解いたり関連図書を読んだりし実力をつけて欲しい。</p>   |  |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>式と計算、グラフと座標、樹形図等を使う力など(中学校で履修)に習熟していること。</p>   |  |
| <p>[レポート等]</p> <p>日々の学習は重要である。宿題や課題も積極的に頻繁に課していくので、誠実に取り組んでもらいたい。</p>  |  |
| <p>教科書：「新編 高専の数学1」(田代嘉宏他 森北出版)、「数学入門(上)」(遠山啓著 岩波書店)。</p> <p>問題集：「基礎数学問題集」(数学教室編集)、ドリルと演習シリーズ「基礎数学」(TAMSプロジェクト4編集)。</p> <p>参考書：「数学入門(下)」(遠山啓著 岩波書店)、「みえる数学の世界1」、「みえる数学の世界2」(山崎 昇監訳 大竹出版)。</p>   |  |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・後期末の4回の評価の平均点で評価するが、前期中間分には入学後に行なう学力テストの成績を25%分としたものが含まれ、前期末分の25%には夏休み中のレポートの評価分10%と夏休み明けに実施する小テストの評価分15%が含まれる。前期分の残る75%と後期については定期試験の評価よりなる。成績不振者は「基礎数学問題集」のA問題を正しく解けることがレポートと小テストで確認できれば最大25%までの不足する点を補えるものとする(ドリルのレポートと小テストでも同様とするが不足する点を補えるのは最大15%までとする)。4回の各評価の再試は平均点が60点を下回らないかぎり実施しない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>  |  |